

一般向け / 約23分

身近に起きる浸水被害 家庭でできる水害対策



冠水した秋田市橋倉五丁目



約100kg/m²



45リットル程度のゴミ袋を2枚重ねる



45リットル程度のゴミ袋を2枚重ねる

自宅が浸水!? 過去の事例を教訓に対策を学び、再建していくまでの道のりをたどります。



一般向け / 約20分

止まらない豪雨 街にあふれる洪水

どう守る 高齢者・障害者



秋田から避難先へ

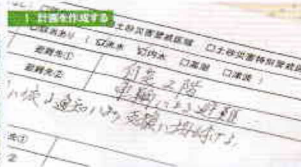
警戒レベル	
5	命の危険 直ちに安全確保!
4	危険な場所から全員避難
3	高齢者等は避難
2	避難行動を確認
1	災害への心構えを高める



ひざ上でも水の流れば怖い



平成30年の豪雨で冠水した真夏の岡山山崎



計画を作成する



自宅を出て避難場所に移動する訓練



見守り活動



2023年6月

水害から要配慮者を守るための予防と対策を解説。地域で要配慮者を支援していく方法とは?



監修のことば



跡見学園女子大学 教授 / 一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 代表理事 鍵屋 一

わが国は毎年のように水害に見舞われ、高齢者や障害者等が多数、犠牲になっています。

政府も問題意識は持っていました。「高齢者等の避難支援」に関する内閣府の初めての委員会は、平成16年10月7日です。それから20年が過ぎようとしています。いくつかの委員会が作られて検討され、その結果を受けてガイドラインも作成されました。それにもかかわらず、平成30年西日本豪雨災害、令和元年東日本台風、そして令和2年熊本水害で高齢者、障害者をはじめ多くの方が犠牲になりました。

近年、ハザードマップが普及し、的確な気象情報が入手しやすくなっています。水害に対しては、厳しいハザード地域に住む人が事前に避難できれば命を守れるはずですが、一方で、脆弱性の高い高齢者、障害者については、自ら判断して避難行動をとることが困難です。そこで、脆弱性の高い高齢者、障害者一人ひとりを対象に、「いつ」「どこへ」「誰と一緒に」「どうやって」避難するかを具体的に決めるのが「個別避難計画」です。また、災害前の避難については行政もメディアも数多く呼びかけますが、「実際に水害に遭った方々へどのような支援があり、そのために何をすればよいか」ということについては、ほとんど触れられていません。

このような課題に取り組むとき、本ビデオは大いに役立つと確信しています。「災害は弱い者いじめ」という社会に決別し、「災害時にも誰一人取り残さない」社会を一緒に作ってまいりましょう。

日本では、大雨による浸水被害が毎年のように発生しています。浸水から自宅をいかに守るかは、暮らしを守る上で重要な課題です。また、高齢者や障害者などの「要配慮者」が逃げ遅れて亡くなる悲劇が相次いでおり、被害を最小限にするためには、要配慮者自身の防災への意識と、家族や地域住民による積極的な支援が欠かせません。「身近に起きる浸水被害」では、浸水被害にあった架空の家族が再建するまでのストーリーを展開し、過去の水害映像、被災者の声、イラストCGなど交えて、予防と対策を解説します。「止まらない豪雨 街にあふれる洪水」では、過去の水害で被災した要配慮者や家族、その避難に尽力した地域の人々のインタビューを交え、予防と対策を解説します。また、地域の中で要配慮者を支援するための活動について解説します。災害から命を守るために、共に学んでいく一助となるものを目指します。

一般向け
約23分

身近に起きる浸水被害 家族でできる水害対策

作品の概要

■浸水から身を守る方法

川から少し離れた木造2階建ての家に、山田さん家族が暮らしています。大雨が降り続いており、山田さん家族はハザードマップを確認しています。

洪水の仕組みに触れながら、ハザードマップの読み方を解説します。また、「令和2年7月豪雨」被災者の話を織り交ぜながら、最初に安全な場所へ避難する重要性について説明します。避難の目安となる「5段階の警戒レベル」に沿った避難方法も紹介します。

山田さん家族は間一髪、自宅が浸水する前に避難しました。浸水開始から水が引くまでの室内の様子を、実験映像や経験者の話を元に検証していきます。

■浸水後の生活再建

水が引き、山田さん家族が自宅を見に戻ってみると…。2階は無事の様子です。

仮住まいの確保や被害状況の撮影方法、片付けと清掃作業を細かく解説していきます。その際は地域での助け合いも重要となります。

そして、公的な支援を受けるために必要なのが罹災証明書です。申請方法や被害認定調査に関して解説します。また、いざというときのための保険も紹介します。

■浸水被害を減らす事前の備え

自宅に水が浸入するのを軽減できる事前の備えとして、日頃から家の周囲に不良箇所がないか確認し、必要に応じて修理しておくことが重要です。

他、事前準備の一つとして、「土のう」「水のう」の作り方についても触れていきます。

価格 ライブラリー価格 本体 **¥68,000** (税込 ¥74,800)

一般向け
約20分

止まらない豪雨 街にあふれる洪水 どう守る 高齢者・障害者

作品の概要

■水害時、どのような困難に直面したか？

「令和2年7月豪雨」で亡くなった方のうち、約80%が65歳以上の高齢者でした。当時民生委員だった方の体験談をもとに「正常化の偏見」（自分は大丈夫、という思い込み）について考えます。

■水害の恐れがあるとき、どう避難する？

大雨の恐れがある場合、要配慮者は早めの避難行動が重要です。「5段階の警戒レベル」に沿った行動について解説しながら、最新の情報を入手したり、自主防災組織などへ手助けを求めたりする必要性を示します。

「平成30年7月豪雨」では、岡山県の真備町で亡くなった方のうちの多くが“2階建ての家の1階”で亡くなっており、自力で2階に上がれなかった人とみられています。このような事態を防ぐためには、家族や地域の手助けが必要になります。

■水害から命を守るため、どう備える？

災害対策基本法の改正に伴い、「個別避難計画」の作成は市町村の努力義務となりました。専門家の話を交えながら、作成のポイントや記入方法、その訓練に触れ、地域ぐるみで避難計画を立てる方法を紹介します。

仙台市の福住町町内会では、日頃から名簿作りで要支援者を把握し、見守り活動を行なっています。秋田市にある横森五丁目町内会では、2023年7月に起きた浸水被害の際、垂直避難の呼びかけや支援物資の配布など、スムーズな連携を取りながら行なうことができました。このような地域の事例を紹介していきます。

価格 ライブラリー価格 本体 **¥68,000** (税込 ¥74,800)

推薦
監修

推薦：一般社団法人 防災教育普及協会

監修：跡見学園女子大学 教授 / 一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会 代表理事 鍵屋 一

スタッフ

企画・制作統括：高木 裕己 撮 影：照屋 真治
プロデューサー：堤 謙一 イラスト・CG：正者 章子
脚 本・演 出：川崎 いけ子

制作・著作／株式会社 映学社

■DVD [カラー] ※字幕版も収録されています

■2024年・映学社作品

- 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者等の著作権者に帰属しています。これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。
- 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧ください。なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。



〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目7番8号らんざん5ビル
TEL: 03-3359-9729 (代表) FAX: 03-3359-4024
info@eigakusya.co.jp
https://www.eigakusya.co.jp/

●お問い合わせ、お買い上げは……

北辰映像株式会社

〒350-0401 埼玉県入間郡毛呂山町中央3-32-3

TEL: 049-298-5792 FAX: 049-298-5793

E-mail: co@hokushineizo.com